

2005年2月17日

甘いものの取り過ぎはお肌に大敵！？

血糖値が肌の乾燥に影響することを発見

株式会社カネボウ化粧品

当社・基盤技術研究所は、東北大 田上八朗名誉教授（皮膚科）、佐藤譲教授（糖尿病代謝科；現 岩手医科大糖尿病代謝内科）と共同で高血糖の糖尿病患者で皮膚の乾燥が亢進していることを見出しました。さらに、三井記念病院総合健診センター（山門實センター長）、昭和大 高橋英孝講師（公衆衛生）と共同で健常人でも血糖値が上昇した際に角層水分量が低下することを発見しました。

生活習慣病のひとつである糖尿病は人口が急増しており、予備軍も含めると成人6人に1人が罹患しているといわれています。糖尿病では多飲、多尿、口渇などの症状が見られることから、全身的な水分代謝異常が考えられます。そこで当社基盤技術研究所では、東北大と共同で糖尿病モデルマウスの皮膚の状態を研究し、角層水分量が低下していることを確認しました。この際、角層のセラミドや天然保湿因子（NMF）であるアミノ酸の低下は認められず、これまでとは異なる角層の水分制御メカニズムがあることを報告しています（*Journal of Investigative Dermatology*, 120, 79-85, 2003 に掲載）。

糖尿病マウスの結果から、血糖値の上昇が皮膚の乾燥に影響しているのではないかと考え、引き続き糖尿病患者を対象として皮膚の乾燥を検討した結果、高血糖のグループでは正常のグループと比較して角層水分量が有意に低下し、皮脂量も低下する傾向があることが明らかとなりました（図1）。一方、もうひとつの糖尿病の指標である糖化ヘモグロビン（過去2～3ヶ月の血糖状態を表す）を基準に比較した際にはこのような差は見られなかったことから、長期間の高血糖よりも今現在の血糖値が角層水分量に影響することを見出しました（*British Journal of Dermatology* に掲載予定）。さらに、三井記念病院総合健診センター、昭和大と共同で健常人での血糖値と皮膚の乾燥について検討し、糖負荷試験による血糖値上昇にともない、角層水分量が低下することを発見しました（図2）。

これまで、血糖値のコントロールはヘルスケアの観点から重要だと考えられてきましたが、今回の発見により皮膚の乾燥にも影響していることがわかり、スキンケアとしても重要であることが見出されました。

以上

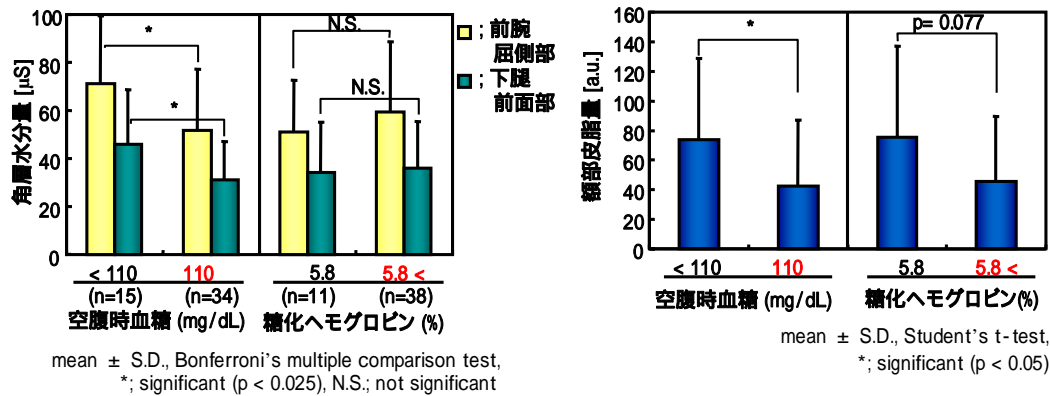


図.1 糖尿病患者を対象とした
高血糖による角層水分量および皮脂量への影響

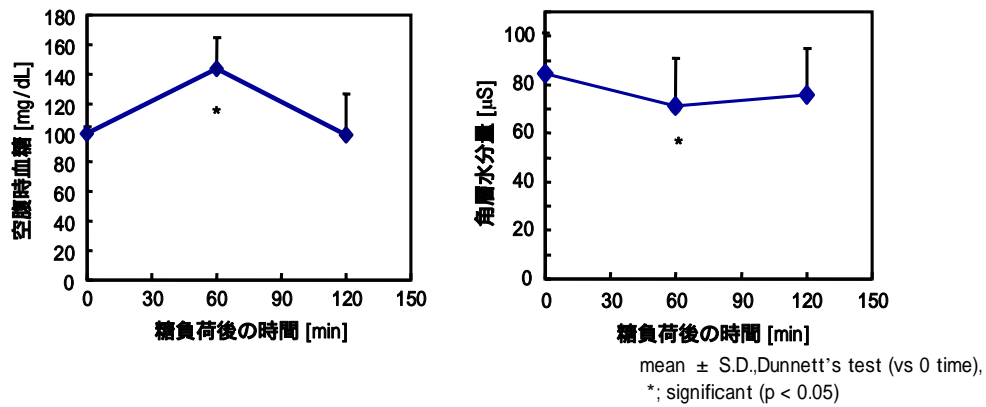


図.2 健常人を対象とした
糖負荷時血糖値変動による角層水分量への影響